



秩入六冊



始



とていふやうなるものなりて實流才二のうやせんきうにたれし
侍すことのきんよはせん考時入るのうよりよきとくきりより
ことごとくなりまじかの徳門も後之乗用白飯のふ代は極風危堪等
考定よはまゝ一本王侍考道よは嫡男をかくこれ考定より考定の父ハ
叔二乗取の三郎女御言家隆とや一一人のこに位のお納め成隆
とや一一人也考傳のしよめ周防よとらきて考定よふじ母方の
祖又考傳男よなきつゆはよこれを養食てあとするゆは其業れ
業とはせんて後よもらとあやけら士とるなり妙音院のたれを
うけけるをせんらなきくもせん一門のよりこおと中くあ
らう一門中ハ諸大夫よとせんやくまをいれせん入地されん
首帳の極風危堪の國司よやながされてや一つよあやのこもせん
いふくはくもせんらなきくもせん一門のよりこおと中くあ
はしあもあはせん一門のよりこおと中くあはしあもあはせん
あつてくせんといはくもせん人のくられせんまはつせん机よむら
せるとせん門徒の人よこれと又机房とやせんをいれなりあ
くらのすまをせん隆因らなきくもせんわうのりこをせん
勲學院のすまをせん人よはくもせんついでせん
けりくけりせんせん禁古とせんハなきくもせん
北侍せんといふ屋よせん友人ハなきくもせん
せんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせん
おろせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせん
せんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせん
志僧よせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせん
こせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせん

勝方とせんせんせんせん

蕭、笛、琴、笙、篳篥、琵琶、篳篥、鏡、銅、鈸、と、竹、や、管、を、こゝろ、あ、る、の、
 の、み、に、し、て、あ、ま、ハ、音、也、あ、ま、と、い、ふ、宮、高、角、徽、羽、は、い、つ、の、
 こゝろ、ハ、音、と、い、ふ、又、金、石、絲、竹、匏、土、革、木、と、い、ふ、の、ヤ、け、り、
 又、こゝろ、音、に、又、二、の、ま、い、う、て、七、聲、と、い、ふ、則、夏、秋、冬、春、の、
 二、の、ま、り、宮、ハ、壹、越、調、君、よ、が、ま、り、高、ハ、平、調、長、よ、が、ま、り、角、ハ、盤、調
民、よ、が、ま、り、徽、ハ、壹、鐘、調、商、よ、が、ま、り、羽、ハ、盤、夾、調、角、よ、が、ま、り、宮、ハ、盤、正、調
 文集の表、茅、三、よ、い、つ、ら、君、の、よ、め、民、の、よ、め、事、の、よ、め、地、の、
 よ、め、これ、を、ま、り、一、の、ハ、音、に、よ、め、く、が、ま、り、う、ま、り、あ、る、れ、う、す、
 とい、ふ、也、

尺、笙、簧、
 五、項、
 五、出、
 草、
 鞞、
 鞞、
 鞞、
 鞞、
 木、
 積、
 鹿、
 雅、

金、よ、五、の、ま、り、あ、る、也、
 鏡、
 鏡、
 錫、
 石、
 磬、
 絲、
 琴、
 琴、
 箏、
 筑、
 竹、
 笛、
 笛、
 笙、
 篳、
 篥、
 匏、
 土、
 革、
 木、

い、と、ゆ、ら、廿、二、卷、の、こゝろ、こゝろ、と、り、と、い、ふ、こゝろ、こゝろ、ハ、音、と、い、ふ、ま、り、あ、る、
 ハ、音、と、い、ふ、ま、り、あ、る、こゝろ、ハ、音、七、と、い、ふ、ま、り、あ、る、ハ、音、と、い、ふ、ま、り、あ、る、
 調、ま、り、あ、る、ハ、音、と、い、ふ、ま、り、あ、る、ハ、音、と、い、ふ、ま、り、あ、る、ハ、音、と、い、ふ、ま、り、あ、る、
 譜、ま、り、あ、る、の、あ、ま、り、あ、る、管、身、と、い、ふ、ま、り、あ、る、ハ、音、と、い、ふ、ま、り、あ、る、
 あ、ま、り、あ、る、な、り、こゝろ、こゝろ、い、く、り、い、く、り、い、く、り、い、く、り、い、く、り、い、く、り、
 樂、書、要、録、と、い、ふ、大、宗、の、后、則、天、皇、后、に、あ、る、撰、也、後、高、倉、君、は、
 梁、園、と、い、ふ、書、院、に、あ、る、書、院、に、あ、る、書、院、に、あ、る、書、院、に、あ、る、書、院、に、あ、る、
 思、合、て、お、長、い、ま、り、あ、る、ま、り、あ、る、ま、り、あ、る、ま、り、あ、る、ま、り、あ、る、
 中、に、あ、る、ハ、書、院、に、あ、る、家、の、説、と、い、ふ、持、本、あ、る、と、い、ふ、
 讀、點、に、し、と、い、ふ、但、こゝろ、こゝろ、唐、書、新、樂、志、と、い、ふ、こゝろ、こゝろ、
 隋、の、あ、る、ハ、書、院、に、あ、る、と、い、ふ、王、者、い、ま、り、あ、る、樂、と、い、ふ、こゝろ、こゝろ、
 唐、の、あ、る、ま、り、あ、る、と、い、ふ、武、德、九、年、に、あ、る、太、常、樂、

彈しきまこびん又鶴林の曲ハ太子の曲ハ高懸りりやうりえ天寺

よとまの如き天宮よりこのふれ津門未竹よ此の如くけりハ

のーつ原也ハ極其れ中事よやな丸と此の如くして津等ハ

長きせとリしすうのつらうれ天宮津笛曲舞よ此にいしりく

きつちけくをとりまふ又仁明代此代ハ此色くをよわりて

臣家ハたほくきらよ長きせ信又初琴といふゆいしりく

のそいり秋野丸と此の如く清上とつりて笛れ曲と傳

貞敏と遣唐使として此色を我朝ようつらう又徳清和行

ハ貞敏よいしりくをとりまふ震且ハ蘆承武此色ハ

傳り朝使よ賜して秘曲とわたりし但仁明文徳とも秘曲

よいしりくをとりまふ清和代聖代の是そ津笛ハ此色ハしり

くまふをとりまふしりく津笛ハ大田丸をまふりけり

醍醐天皇ハ津等ハ大伴時平津所託よまのせ給宇多天皇

又津等ハ石川色子よなすりてまふの由門ハ和琴のり宇多

此を主津自愛のありしといふゆりてまふの由門ハ和琴のり宇多

不謂宇多は師ハ也又天皇宴會ハなるまふハ此の由門ハ和琴のり

天曆の由門ハ津等ハ此の由門ハ和琴のり宇多又文徳

天皇と菅後の前主とハけり也製樂ハ極く未代ハ此の由門ハ

堀河院の時ミラのすしんといふゆりてまふハ此の由門ハ和琴のり

ミラハ此の由門ハ和琴のり宇多ハ此の由門ハ和琴のり宇多

アそあまねくさくさくといふゆりてまふハ此の由門ハ和琴のり

大伽言又知是院政をさやくあまうつなを鏡しんやうせとハ

ハ此の由門ハ和琴のり宇多ハ此の由門ハ和琴のり宇多

ハ此の由門ハ和琴のり宇多ハ此の由門ハ和琴のり宇多

つゆ、津陽名をてしむまふくよ、傳て、中、後、の、曲、と、奏、す、と、く、く、と、
傳、ま、と、い、ひ、け、つ、す、ま、い、ゆ、と、い、の、中、時、ま、と、ま、れ、あ、ひ、よ、ひ、け、つ、と、ま、ま、
傳、り、高、倉、に、津、留、也、帥、大、納、言、貴、國、と、い、は、ま、お、れ、は、皇、津、彗、也、
定、捕、と、い、帥、と、せ、り、出、留、よ、い、貴、教、と、ま、い、り、給、順、德、流、也、也、
定、捕、と、い、り、よ、帥、礼、の、臣、を、也、後、堀、河、流、也、也、は、皇、れ、也、後、
傳、と、せ、お、れ、ま、守、れ、位、の、後、い、と、い、ゆ、と、ま、い、り、け、り、そ、の、ら、
中、末、後、堀、河、の、は、皇、二、代、の、出、ま、に、と、よ、り、平、院、を、く、わ、り、
あ、と、い、こ、し、て、中、後、と、い、ゆ、こ、し、り、す、也、也、始、よ、い、今、が、河、大、納、言、の、
信、守、と、い、ま、い、り、給、な、い、く、尾、張、内、侍、と、い、考、時、二、女、後、刑、
房、と、い、給、ま、し、い、し、い、く、ま、い、こ、し、り、ま、し、け、り、考、時、あ、い、せ、
あ、ま、ゆ、く、ま、い、給、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、
し、く、と、い、ま、い、や、り、れ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、
ま、い、ち、ま、い、せ、給、ゆ、り、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、
こ、に、ま、い、ち、ま、い、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、
と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、
帥、よ、ま、い、り、給、ま、い、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、
こ、に、も、ま、い、り、給、ま、い、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、
調、子、の、な、ま、い、り、給、ま、い、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、
れ、何、れ、ま、い、り、給、ま、い、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、
く、や、と、い、り、給、ま、い、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、
津、留、也、と、い、り、給、ま、い、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、
ま、い、ち、ま、い、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、
津、留、よ、い、考、時、二、男、考、時、の、お、ま、い、り、の、う、こ、ま、い、り、と、い、ゆ、と、
こ、の、ま、い、り、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、い、ゆ、と、

おのゝひさくちあしきうんまうんらうらうらてまきよひさ
しあうすあふといふきき一旦うにうけりて山川の風流
通すらんをせりしものよくらんするくらなくきんかきに極を
くまうせんよかこころがけにたのまきまきとけりしあし
せうかふれとまかふとよんハ籙の袋をいほつことうに井上
らうまうハうまをさうらうらるハ隆因いんる美別をうすまふん
きり端よんまれその風はまよ門のうられいふうにまき
まきあう若時つゆまよハハハ色を大國よまきうんといひ
人けりるさうらうらうらう胡成よとこらうあまこれと胡琴と
いふとすんこのすじと比といひ引てのききとくととよひ色乃
あまよ川隆陽と具足をさし誤のあつまよのきいて珠の瑞主
れとき后主と鳥弦よあうこらう愛静とまて馬上よ曲とまきり

これとまきりて屋道路のうらうことやすい明君屏といふは
この曲のまきり又玄宗の神代ハ玉妃ハ色あやけら愛揚真
博おゆとまきりて傳格して以後せれ一曲とす又江阿の目上
白居易ハ汾浦の口よそく船樂と聞まうらうく市郎の、ま
あつとけいハハハと感して一巻の銘とけくら甲の比色川則
いれり情まの心けりくハ比色ハれせうい速之の太本
山川虚空の儀理なり半月隠月ハ顯密にハ書ね隆陽の
二の理をあり甲し因平の二儀ハ天地高下ハ不同をま
すハ後江柱のまきり地ハ中季下方の地運を表す故ハこれと天
地相照らうハこれを江海の要領とす沙字変ハハ比色とかり
則并才天ハれをうらう天ハ鳴とりて弊とす板葉ハ社津
鳩の号ありうく得度のとこりといふ若れらうては

己れをあらめ我のきこしん衆生のしめにはよくくつて
と誦かー得益を甚地せんりくくの感應とまげしきまう
されはる侍りして心となつてまきーあまの三たいらく我
朔傳るはらまきとんくーりゆーに上序ふ

机談卷第一

儀美秋羽事 湯屋天衣事 水衣師清條事 貞敏の聲事 御前事
 乃校曲事 夢羽事 玄上牧馬事 着此朝事 貞師卒事
 三格曲傳受事 文徳帝受歌撰 天皇御遷原事 南宮宮流事 王昭君曲事
 耳陽殿行譜事 貞敏譜序事 貞保院王事 直貫習術事 何國秘曲事
 西宮何猶曲伝事 循法曲調事 三格許法事 靈推奈事 靈授曲事
 靈曲仙事 信明坊曲事 古事 漢事 椎君曲園食事 長林之笛譜事
 慈尊曲事 勝扇事 和譜事 垣代慈色事 玄上事
 孝道見せり 宮仕狼藉事 河内者事 南邊なる流事 用白及紫事
 代々事所事 桂流始事 意樂曲事 奉持天女像事 住吉所奈譜事
 基保師被序事 作色事 依勅撰事 譜事 已上八十宗

文机談巻第二

四弦末

一 廣衣衣ハ大君の比也の博士なり 開元寺のよりハ一節といひしハと
 越我部といハ仁明天皇の四宇 氷和才二のよりこの仁明天皇ハ聖徳太子の
 皇子和琴ハ第一世也
 かりんのとも藤原貞敏といふ人ハと遣唐使として比也となりしハよ
 けりともすこの貞敏ハ刑尸を徳彦の才也の子わくしり琴をといふ語
 又逢かともさす 万里のたつみのよりハ後會りしハともさす
 かく皆し作りけしとも命と君よとんらつるハ是長のなるハ
 才といふとも縄とともん七日七夜といひけるハ西氏の東のと備を
 明洲といふ所ハ着し竹ぬハ開元寺にききしなり水鉢よきつはりて
 王傑と官憲存よけく憲存ハハ清く銀青大夫よきんらつる
 大吏別奏國として唐勅と承衣よくとも承衣別朝使貞敏よ
 得する事と得しよりこらまりハ勅旨れくしけり事つとも
 とらひて承衣面を地よとらひて勅答のともしきハ奏せんとすらつら

されハ昔のそとそとせよハPける南文の山のふなる人々
の才代ハさしし、さしどつ川のミ、いときミ、くせとり、ましける
し、し、のハ子に勅して、延喜十九年、勅在、同、乙、未、年、作、す、く横笛の譜十二巻と乞ふ、りせ、ら、ま、く、せ、給
し、の、せ、ま、く、と、南、文、校、笛、譜、ハ、P、カ、ミ、ハ、これ、なる、く、天下の證譜
く、ら、よ、ら、と、し、お、け、く、樂、家、の、録、よ、の、せ、り、又、王、昭、君、と、い、つ、曲、ハ、漢、の
明、老、胡、國、の、よ、い、よ、さ、す、ら、ん、ハ、一、等、ハ、の、あ、ま、く、と、馬、上、よ、ま、く、人、ける、曲、也
一、名、明、君、厚、も、し、り、又、照、君、も、し、く、又、又、馬、の、一、曲、も、か、け、り、代、の
伶、人、く、ら、く、あ、ら、曲、と、な、い、し、ん、後、を、ま、け、れ、ハ、く、ら、と、き、す、
ら、と、し、樂、家、の、譜、の、あ、ま、く、い、り、し、ら、ん、ハ、と、く、あ、の、譜、り
く、ら、い、り、て、よ、い、は、い、ら、よ、ら、い、く、は、く、後、あ、い、く、毎、よ、は、く、
ハ、ま、く、ま、く、し、れ、を、給、ら、ん、を、れ、ハ、れ、と、い、ん、ま、く、ら、く、女、ね、い、く、

王昭君故事

重陽殿行譜事

すして神よ、誓、火、と、い、く、ミ、ん、そ、り、な、ら、ん、あ、り、ま、く、い、ん、ら
一、の、ハ、師、大、田、丸、の、笛、譜、と、ハ、嵯、峨、天皇、り、て、重、陽、殿、の、あ、り、ま、
又、内、初、燈、ハ、貞、觀、十、八、年、で、月、十、九、日、也、清、和、帝、年、
と、し、せ、と、り、ま、く、細、家、の、ね、り、ま、い、く、ら、く、ハ、重、陽、殿、の、行、の、譜、と
件、仲、通、く、初、燈、重、陽、殿、也、
て、證、よ、ら、し、い、く、こ、れ、也、他、美、上、の、時、と、り、い、く、ま、く、て、や、け、い、い、

貞敏譜序事

二の譜も、つ、す、天下のを、ま、け、く、け、り、と、な、り、ぬ
貞敏譜序云、凡、願、調、子、數、已、懸、多、り、其、中、秘、手、皆、甚、傳、受、始
近、喜、廿、年、孟、冬、終、り、于、廿、一、年、季、秋、親、王、天、性、洞、曉、
圖、一、知、十、假、令、又、十、東、生、并、生、百、才、不、死、以、之、天、院、同、不、容、數、今
以此譜奉、後、叙、生、諸、才、智、音、雅、造、古、人、所、歎、聊、叙、由、錄、以
為、後、日、之、張、本、也、已

清師貞敏も、つ、つ、けて、平、譜、と、所、属、ま、く、ら、く、ら、く、け、り

貞保院王事

貞保院、女、太、后、藤、高、子、延、長、二、年、六、月、十、九、日、薨、ゆ、り、三、人

剛、下、
剛、下、
一、改、也

とんまう〜んとして備はり〜をせておけせられけりい〜が中〜ま
事作りと〜とまのけりしなま〜ぞ〜ま〜い〜ま〜ま〜ま
年月のながく〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
師補り〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
いつ〜聴す〜とゆ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
好士にあり〜と〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
一會あり〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
おま〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
けりハ小夜夜の〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
けり〜西の〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
午のちや〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
大絃よ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
銀盤〜〜〜

とく〜き〜鐵騎〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
まの泉の〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
か〜く〜と〜く〜ゆ〜く〜ら〜ゆ〜ら〜志〜指〜の〜み〜れ〜あ〜や〜け〜い〜は〜く〜を〜く〜よ〜ハ
く〜の〜と〜ち〜午〜の〜二〜の〜陸〜路〜ま〜く〜し〜と〜い〜ふ〜ま〜つ〜め〜と〜も〜ら〜と〜は〜く〜て
弾〜れ〜も〜れ〜れ〜格〜術〜格〜後〜の〜ら〜あ〜く〜奥〜義〜淵〜底〜を〜ま〜ら〜し〜や〜
て〜け〜り〜の〜ま〜ら〜と〜を〜は〜ま〜也〜南〜文〜れ〜ゆ〜〜お〜ら〜し〜格〜曲〜と
この備〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
く〜の〜ら〜を〜お〜ま〜い〜し〜の〜い〜ら〜〜く〜ま〜ら〜せ〜上〜し〜げ〜ら〜ま〜あ〜れ〜と
西〜文〜は〜し〜も〜ゆ〜め〜道〜と〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
よ〜の〜ら〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
三秘津法事
一曲の〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
よ〜ら〜三〜の〜想〜を〜や〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

桂文仙言の記より、の死す、よ成て都率れ、由後より、其後
り、夢に、は、を、ありと、や、並、後、と、や、必、れ、も、降、因、ま、い、の、就、録、
う、す、ま、い、ま、ま、い、ハ、書、を、吞、ん、ま、り、何、す、又、或、地、後、よ、か、ま、い、を、を、り、は
この傳雅の君より、ま、れ、修、け、り、つ、時、西、山、よ、す、ま、い、け、り、上、人、の、耳、よ、ま、い、に
音樂のま、ま、い、け、れ、を、世、せ、人、を、れ、ち、る、や、う、ん、と、ま、い、ら、る、を、に、て
ま、れ、ゆ、く、わ、た、に、この、亦、よ、い、り、ね、あ、や、く、て、ま、い、け、ハ、こ、乃
い、ら、ま、ま、い、の、世、せ、一、修、を、る、亦、上、人、の、け、り、ま、こ、の、君、より、人、よ、ハ
ま、い、せ、り、と、な、り、い、て、い、そ、つ、に、ゆ、ま、ま、い、に、ま、い、よ、が、り、修、を、る、と、や
又、和、琴、の、曲、よ、あ、り、ま、の、ま、り、め、と、や、う、う、く、し、ん、と、ん、會、坂、の、か、ど、り
が、り、旨、者、の、つ、り、を、ま、い、し、も、書、曲、子、修、け、り、これ、と、よ、り、(色)の、番
キ、う、ん、こ、め、に、ま、い、ゆ、後、修、を、る、と、ぬ、い、ま、ま、い、也、ま、い、人、兵、り、志
馬、者、を、信、平、と、り、ら、け、ら、け、ら、ゆ、り、ま、こ、の、ま、い、い、あ、り、ま、い、く、む、む、い、
ま、い、一、巻

ま、い、け、り、ま、い、ま、い、也、この、君、に、三人、附、れ、一人、也、信、貞、一、男、これ、ま、い、
雙、調、の、君、と、い、信、義、ま、い、の、ま、い、三、男、を、ま、い、この、今、ま、い、り、ま、い、れ、く
い、ま、い、ま、い、ま、い、人、ま、い、り、け、り、又、在、平、弁、其、の、君、に、い、ら、れ、ま、い、と、ま、い
ま、い、ま、い、の、大、術、信、明、これ、ま、い、り、ま、い、れ、も、管、弦、の、越、壁、る、に、ま、い、し、ハ、皆
ま、い、く、に、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、
修、わ、り、ま、い、ハ、ま、い、に、ま、い、人、の、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ハ、書、子、利、子、に、ま、い、
ま、い、ま、い、ま、い、修、を、る、又、この、信、明、を、和、号、と、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、

勝負事

一、この雅三品、ハ、四、品、と、其、三人、の、賢、母、は、ま、い、之、後、雙、調、の、君、ハ、ま、い、
笛、と、は、ま、い、之、修、を、り、信、明、信、義、と、に、牛、角、ハ、ま、い、と、あ、り、ま、い、村、上、の
天皇、これ、を、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、
ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、の、ま、い、れ、修、人、この、ま、い、ハ、此、あ、り、ま、い、ま、い、ま、い、

るからとにとのくりに應じて心配とまて二人あつてもいりぬ
信義玄上は信長より信明牧馬と信長より信明とて
申したるをいひては信明又玄上といく信義よりして牧馬は信長
その、とまてふゝの言はるり仍玄上は牧馬にまてふ信義
信明よりなりぬと云ふ事とよの人よりよけりときにとりてその世
ありけり昔湯成迄の四時こそあつてき地合ふとありきとて
こはくをもちまて信長よ、の代も又るやの賜ありて
人の心もまてしらの清深とまてこときおるはうとやとん
あつてやとん信長のときとて天誅よ、平合應和よ、宗論よ、
まてまてすあつてまてあつてそのまておるよ、の信明とすまて
いふくならしめまて次信義はまてまて信長一代んやとぬ
いふのまてまての信明のまてまて唐室あつて信明とてこれ信明とて

和譜事

折一とて信明は又信長とて作は信長宗の曲とて、とてに
この君信はハヤやまをあつてせ信といふまて信をいふとて
清浄教の舞神法にも玄上とて弾て玄上といふか信長とて或は
又信長の信けりまて代もまて信義とてまてまての信明は
いふまてまての信明は降回とてまてのまておるくといふまてその信とて
まてまての玄上とてまて信ハ天下才一の信明海内を信長の信實也ハ
ハ雅音とてあつて人そまの清撰とて應て信明とてあつて軍さ
勸賞のあつてまてあつて或てそのまてまて信は九章のあつてまて
あつてまてまてあつてまて人た同とてまて小信とてまてまて
まてまてまて代すの信ハの信長神変あつてまてまてまてまて
まてまてに應てまて仁とてまて弾儀とてまてまてまてまてまて
まてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて

玄上事

清浄教の舞神法

和譜事

終